

ジーエスワン

ジャパン

GS1 Japan News

一般財団法人流通システム開発センター

GS1標準で、安全・安心、効率的なサプライチェーンを推進します

第32号

2025年5月



GS1 ヘルスケアジャパン協議会オープンセミナー報告 P.2

Discover GS1 2025 開催！ P.3

GS1 Global Forum 2025 参加報告 P.4

雑誌用バーコードのコード体系変更について P.5

リテールテック JAPAN 2025 に出展 P.6

理事会・評議員会を開催 P.7

GS1 ヘルスケアジャパン協議会オープンセミナー報告

— GS1 Healthcare 設立 20 周年 より良い医療を考える —

GS1 ヘルスケアジャパン協議会（以下、協議会）は、2025 年 3 月 11 日、KFC ホール（東京・墨田）にてオープンセミナーを開催した。本セミナーは、コロナパンデミックで中止した 2020 年を除き毎年行われており、今回で 9 回目となった。2021 年以降は会場とウェブのハイブリッド開催となり、参加者は会場とウェブを合わせると 1000 名を超えた。

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長の野村由美子氏、GS1 本部の Géraldine Lissalde-Bonnet 氏を含め計 7 名の演者による講演が行われ、併設する会場では、協議会会員 12 社によるバーコードリーダや印字装置等、GS1 標準の活用に関連した機器、システムの展示が行われた。

行政の動き

野村氏からは、GS1 バーコードの表示と利用に関する政策、製品データベースの検討スケジュールに加え、回収（リコール）情報の提供の際に、GTIN も併せて提供できるよう準備が進められていることなどが紹介された。また、標準型電子カルテや各部門システムにおいても、GS1 バーコードの読み取りができるようにすべきであろうというコメントも発せられた。薬機法による医療製品へのバーコード表示が義務化されて 2 年が経過する中、さまざまな検討が進められている状況がうかがえた。

GS1 Healthcare 設立 20 周年

GS1 本部には、ヘルスケア分野に特化した標準作成や普及推進のため、グローバル企業や医療機関で構

成される「GS1 Healthcare」が設置されており、2025 年で設立 20 周年を迎える。Lissalde-Bonnet 氏から GS1 Healthcare の 2027 年までの戦略、GS1 に関わる規制や利用の世界動向とともに以下のような最近の取り組みが紹介された。

GS1 では製品包装に複数のバーコードを表示することを良しとしない。特に医療製品においては、複数のバーコード表示が医療機関での利用障害となっており、安全性低下につながりかねないと考えられている。そのため“One Product, One Barcode”を提唱すると同時に、一つのバーコードからさまざまな情報につなげる仕組みが推奨されている。具体的な事例として、GS1 バーコードから電子化された添付文書を閲覧できる日本の事例の他、東欧諸国の各言語での添付文書につなげる実証試験、Google 社との GS1 データマトリックス読み取り試験などが紹介された。

医療現場での GS1 バーコード利用と課題

手術室や透析現場での利用例として、手術で使用した医療材料の記録に GS1 バーコードを活用することでトレーサビリティの確立を進めていること、透析に用いるダイアライザ（血液浄化装置）や医薬品のチェックに GS1 バーコードを活用することで、インシデントの大幅削減とスタッフの負担軽減効果があ



セミナー風景

ることなどが報告された。

薬剤部と保険薬局での利用例では、薬剤の取りそろえ、監査での利用の他、麻薬管理などでの課題、大型店舗などで導入が進められている入庫・ピッキングの自動ロボットでの運用などが紹介された。

香川大学の臼杵尚志氏を座長としたパネルディスカッションでは、GS1 バーコード活用における導入コストに焦点を当てた議論が行われた。正確な履歴管理を行うことによる効率性の向上や不要な医療製品の選別、適切な治療の選択などのコストメリットを安全性の向上と合わせてデータ提示していくことが必要であり、データの二次利用という点も重要なメリットであるという意見などが交換された。

本セミナーは来年も同時期での開催が予定されている。また、協議会ウェブサイトでは、GS1 に関連するセミナーの開催案内やガイド等を公開している。

（ヘルスケア業界グループ）



Discover GS1 2025 開催!

— GS1 を知るための特別な 2 日間 —

GS1 Japan は、GS1 を知るための特別イベント「Discover GS1 2025」を1月20日～21日に開催した。本イベントは、JAN シンボルの活用が始まってから50周年を迎えた昨年初めて開催され、大好評だった。イベント名の“Discover”には、①GS1 標準を「発見」してほしい、②GS1 標準で新たなソリューションを「発見」してほしい、という2つの意味が込められている。本稿では、特に外部プレゼンターの発表を中心に、Discover GS1 2025 の講演内容を紹介する。

JETRO 二宮氏：輸出における GTIN 活用のメリットとは

(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)が提供するサービス Japan Street は、国内のサプライヤーと海外バイヤーの架け橋となるプラットフォームである。商品の識別には GTIN の活用を推奨しており、現在、全商品のうち、7割以上の商品に GTIN が登録されている。特に、コスメ・ビューティーでは9割以上の活用率、ベビー・キッズ用品やアウトドア製品、ヘルスケア関連なども GTIN の活用率が高い。GTIN を活用することにより、商談における明確な商品特定が可能となる。

ゴールドウイン 澤田氏：アパレル分野における EPC/RFID の活用

(株)ゴールドウインは、スポーツアパレルで複数のブランドを展開する企業である。ゴールドウインでは2018年にRFIDの導入検討を開始し、現在は複数のブランドでRFIDタグを導入している。RFIDの導入により、従来、夜間に4時間以上かけて作業していた棚卸を、導入後は

半分以上の2時間程度にまで省力化でき、日中の作業も可能になった。また、省力化により月に1回の仮棚卸も実施している。また、直営店では商品探索が容易になったことに対してもメリットを感じているという。

日建リース工業 浜田氏：レンタル物流資材管理のための EPC/RFID の活用

日建リース工業(株)は、昭和42年創業の総合レンタル企業である。2019年に、RFIDをすべての農産メッシュボックスパレットに取り付けて、個品管理していくことが、社内で決定した。農産メッシュボックスパレットは日建リース工業⇒JA等⇒生産者⇒JA等⇒食品加工会社等⇒日建リース工業へ返却という複数のステークホルダー間を行き来する資材である。そのため、GRAIを表現したEPC/RFIDを導入している。人手不足も深刻化する中、運用改善を続けながら、効率的なシステムに進化させていくとのことである。

味の素 長濱氏、出原氏：GS1 標準を活用した物流可視化・効率化

持続可能な加工食品物流の構築を目指す味の素(株)は、その実現に向けてGS1標準を活用した物流の可視化・効率化、新たな付加価値の創出を目指しており、2024年1月に日清食品(株)と共同で実証実験を行った。商品の個品単位、複数の商品をパレットに積みつけた輸送梱包単位、複数の輸送梱包を含む出荷単位それぞれにGS1識別コードを設定した上で、出荷(味の素)側と入荷(日清食品)側にEPCISリポジトリを構築し、梱包、出荷、受け入れなどのイベントデータを記録、それ

らを共有できるようにした。物流に関するデータを事前共有することができるため、受入情報を把握し検品業務の効率化につながっている。

イオン 山田氏：イオン×GS1 商品データベース

山田氏は、イオン(株)が取り扱う膨大な商品をユニークに認識し、その商品情報を活用するためにはGTINの活用が不可欠だという。また、社内ルールを新たに規定するのではなく、すでにある標準(=GS1標準)をうまく活用することが重要との見解を示している。GTINはPOSレジだけではなく、需要予測やマーケティング、オンライン販売などといった、企業競争力の向上にも活用することができる。そのため、これまで以上に商品識別や商品情報についてGS1標準やGS1データベースの活用を重要視していくとのことである。

Discover GS1では、その他にも「2D in Retail」や「流通BMS」など多岐にわたるセッションを実施した。JANシンボルの誕生から50年がたち、社会環境が激変する今、GS1標準の3層(Identify, Capture, Share)についてこれまで以上に理解を深めていただきたい。GS1標準は非競争領域における企業間の連携に活用できることはもちろん、社内の業務プロセスの改善やマーケティング、消費者エンゲージメントなどの競争領域においても、車輪の再発明をせずに武器として活用することが可能である。GS1標準をさまざまなビジネスシーンで活用していただくために、GS1 Japanはこれからも積極的な普及推進活動を行っていく。

(グロサリー業界グループ 分部)

GS1 Global Forum 2025 参加報告

— Powering trust in data for everyone everywhere —

GS1 Global Forum は GS1 本部が主催する年次大会であり、2025 年はオランダ・ノールトウェイクにて 2 月 17 日から 20 日にかけて開催された。会場参加とウェブ参加を併用したハイブリッド形態による開催で、会場 691 名、ウェブ 1421 名の合計 2112 名が参加した。3 件のプレナリに加え、40 超の個別セッション、各地域の加盟組織ごとに情報共有を行う地域別フォーラムから構成されており、また、スポンサー企業によるブース展示やセッションも実施された。

Vision 2030 – これからの GS1 の成長戦略 –

プレナリでは、“Vision 2030”と題された GS1 の新しい成長戦略が説明された。Vision 2030 の標語は“Powering trust in data for everyone everywhere”である。「信頼できる情報を、誰にでもどこでも」、つまりより具体的には、製品などの対象を信頼できる仕組みで識別し、さらにその対象に対する信頼できる情報=trusted data を利用できるようにすることを目指している。



Opening Plenary にて Vision2030 を紹介する Renaud de Barbuat 氏 (GS1 本部 CEO・左) と Mark Batenic 氏 (GS1 Management Board Chair)

Vision 2030 には三つの柱がある。一つ目の柱は、「製品のマーケットへのアクセスおよびリスティン

グ」「サプライチェーンを通じたオペレーションの効率化」「消費者安全・患者安全の確保」「サステナビリティ・循環型経済の実現」といったビジネスニーズを起点に活動していくことである。

これに対応するために GS1 が提供するソリューションについて特に重点としているのが二つ目の柱であり、具体的には「GS1 標準およびガイドライン・ツールの普及と進化」「GS1 標準の二次元シンボルの利用拡大」「GS1 のレジストリーの拡大と最適化」「GS1 加盟組織が提供するデータサービスの普及と強化」の四点を挙げている。

上記について GS1 全体として協調して推進していくことが三つ目の柱である。特筆すべきは規制当局との連携を強化していく必要があると言及されている点である。近年、サステナビリティ等の面から製品のサプライチェーンに関わるさまざまな法規制が打ち出されてきており、それらは対象となる製品等に関する正確かつ信頼性のある情報提供を要求している。事業者が標準的な手法でシームレスにこれらさまざまな法規制に対応できる世界観を目指して、GS1 として標準の普及啓発や規制当局への働きかけを行っていく。

「信頼できる情報を、誰にでもどこでも」

製品等に関する信頼できる情報が要求される場面は法規制対応だけではない。例えば E コマースで購入する製品を検討するときに消費者が触れることができるのは、デジタルな製品情報でしかない。今回の GS1 Global Forum の中で先進事例を扱うセッションでは、製品情報

や利用者の利用履歴・嗜好に基づいて製品購入の提案を行う AI エージェントの紹介があった。当然、そのような製品情報は信頼できるものであることが望ましい。インターネット上での情報のやり取りが増加していく中で、GS1 識別コードによって識別される対象に対する信頼できる情報の需要は他にもさまざまな場面で増加していくだろう。

このようにさまざまな需要がある中で、「信頼できる情報を、誰にでもどこでも」提供できるようにするための基盤たるべく、GS1 は引き続き活動していく。

当財団職員が Everyone Makes a Difference Awards を受賞

当財団の植村康一ソリューション第 2 部長が、2025 年度“Everyone Makes a Difference Awards”を受賞した。これは GS1 の名誉会長 Tim Smucker 氏によって 2017 年に創設された GS1 本部および加盟組織の職員を表彰する制度である。植村部長は、ヘルスケア業界における GS1 標準バーコード利活用の普及啓発活動や、医療用医薬品・医療機器の電子化添付文書を閲覧するためのアプリ「添文ナビ®」の開発、などといった実績を評価され、今回の受賞となった。



授与式に登壇した植村康一部長（中央）

（RFID・デジタル化推進G 佐藤）

雑誌用バーコードのコード体系変更について

ー「2026 年 1 月発行」の雑誌から運用変更ー

「定期刊行物コード（雑誌）」のコード体系一部変更

2026 年 1 月発行の雑誌から、雑誌に表示されているバーコード「定期刊行物コード（雑誌）」のコード体系が一部変更されることになった。

「定期刊行物コード（雑誌）」は、出版業界と GS1 Japan が取り決めた定期刊行物流通のためのコードである。JAN コードに準拠した 13 桁のコードを用いて、雑誌をはじめとする定期刊行物を識別する。

現在、商業雑誌については、ほぼ 100%「定期刊行物コード（雑誌）」が表示されている。

ネット通販拡大により問題が顕在化

現在のコード体系（図 1）では、雑誌の発行年の西暦下 1 桁（Y1）で表しているが、この方法では 10 年に一度、コードが重複する。例えば、2015 年 1 月発行の A 誌と 2025 年 1 月発行の A 誌に全く同じコードが割り当てられる。

以前からこの問題は認識されていたが、近年、ネット通販の拡大により、従来の店舗販売に比べ雑誌が長期間にわたり販売されるようになってきたことから、これまで以上に雑誌の販売に混乱を生じる恐れが出てきた。

今回の変更方針は、2023 年 9 月に（一社）日本出版インフラセンター（JPO）雑誌コード管理委員会が、重複コード問題に対処するため、プレスリリースを発出。その後、詳細検討を経て、このたび最終決定されたものである。詳細内容については、下記 JPO サイトを参照いただきたい。

<https://jpo.or.jp/topics/2025/03/20250311.html>

（注）日本出版インフラセンター（JPO）：日本における出版産業のインフラ整備を目的に設立された出版業界の団体。

新たなコード体系

新たなコード体系（図 2）は、現在のコード体系の先頭「4910」の 4 桁目「0」の固定値を、雑誌の発

行年の西暦下 2 桁目（0～9）を表す数字に変更する（例：2026 年の場合はコードの先頭 4 桁目を「2」、2030 年代の場合は「3」）。これにより、2090 年代発行の雑誌までコードの重複が発生しなくなる。なお、先頭 4 桁目（Y2）以外の桁の定義についてはこれまでと変わらない。

バーコード読み取りシステムに支障が出る可能性

今回のコード体系変更は必要最低限にとどめられているが、POS を含むバーコード読み取りシステムにおいて、「定期刊行物コード（雑誌）」を「4910」で始まると定義している場合、バーコードの読み取りができなくなる可能性がある。

「定期刊行物コード（雑誌）」の読み取りを行っている関係各社においては、早めにバーコード読み取り機器の設定を確認し、必要に応じて設定変更するなどの事前準備をお願いしたい。

（コード管理部 小柄）

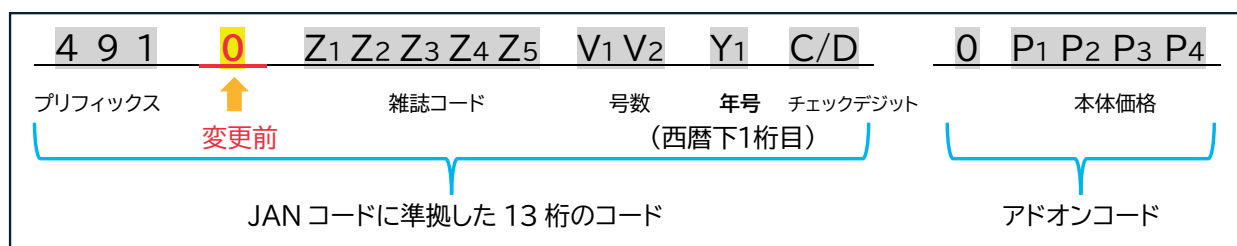
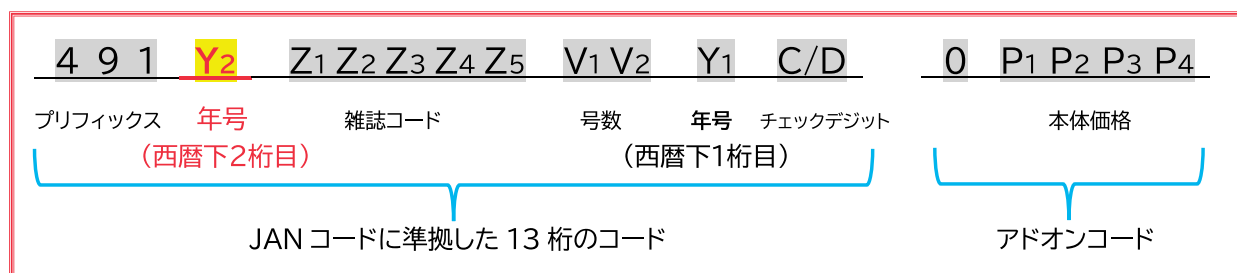


図1 現在の定期刊行物コード（雑誌）のコード体系



※2026年1月発行の雑誌から適用

図2 新たな定期刊行物コード（雑誌）のコード体系

リテールテック JAPAN 2025 に出展

— 一層の普及啓発に向け GS1 Japan が推奨する標準をさまざまな形でアピール —

2025 年 3 月 3 日から 7 日にかけて「リテールテック JAPAN 2025」（日本経済新聞社主催）が東京ビッグサイトで開催された。当財団は本展示会のスタート当初から特別協力団体として継続的に支援し、会場出展やセミナーの企画も行っている。

当財団の出展エリアは、展示内容に応じて内部を「GS1 Japan ゾーン」と「流通 BMS ゾーン」に分け、それぞれのゾーンには GS1 Japan パートナー会員(GJP 会員)はじめ、協力企業の個別のブースを設けている。今年は「GS1 Japan ゾーン」に 2 社、「流通 BMS ゾーン」に 7 社の計 9 社の出展があった。

「GS1 Japan ゾーン」では GS1 標準関連の製品およびサービスを提供している会員が、「流通 BMS ゾーン」では流通 BMS 関連の製品およびサービスを提供している会員が、資料の配布や担当者による説明を実施した。また出展エリア内に設けたセミナースペースで出展各社の商品、サービスの紹介などを行った。

三つのデモンストレーションを実施

「GS1 Japan ゾーン」では、GS1 標準の GTIN (JAN コード)、商品情報データベースサービス、EPC/RFID、ヘルスケアや各協議会など、当財団のさまざまな事業の取り組みをまとめたパネルの展示や動画の上映、各種資料の配布とともに、各事業の担当者が立ち会い、来場者からの質問に対応した。

また三つのデモコーナーを用意した。それぞれの内容は以下の通り。

① LINE ヤフー×GS1 Japan コラボ企画

2024 年 10 月のリテールテック

大阪に続いて実施した LINE ヤフー(株)との共同企画コーナーで、同社が提案する LINE ミニアプリを利用した「スマホレジ」のデモを実施した。ここでは「期

限切れ製品の販売防止」、「自動値引きやポイント付与で実現する食品ロス削減」、「顧客へのアレルギー情報の提供」、「商品の原産地情報表示」の四つの機能の紹介と、さらに GS1 標準の二次元シンボルに加えて「GS1 Digital Link」標準を活用することで、消費者を期間限定キャンペーンやレシピなどのウェブ上の情報につなげられる仕組みを提示。購入後の顧客とのコミュニケーション強化も図られ、より安全で快適な買い物を提案したものとなっていた。

②次世代バーコード

グローバルで導入が進む 2D in Retail について紹介するコーナーで、食品ロス削減を目的としたダイナミックプライシングを実現する次世代バーコードを利用した POS レジのデモを実施した。

③物流の可視化、トレーサビリティ確保へ「EPCIS」「GS1 Digital Link」

デジタル化が急速に進行している現在において、トレーサビリティ確保や顧客満足度向上に役立つデジタル関連の GS1 標準「EPCIS」や「GS1 Digital Link」の活用方法をイメージしていただくためのデモ展示を行った。

新しいコーナーも導入

さらに初の試みとして当財団 HP「GS1 AIDC 標準自己適合宣言製品



デモブースの様子 (右から左奥へ：次世代バーコード、LINE ヤフー×GS1 Japan コラボ、「EPCIS」「GS1 Digital Link」の各ブース)

リスト」(https://www.gs1.jp/org/group/partnership/member_products/)に掲載されている GJP 会員の製品を紹介するコーナーを設置した。

本リストはバーコード生成ソフト、バーコード専用プリンター、バーコードスキャナ、バーコード読取ソフトの 4 カテゴリーについて、当財団が提供するチェックリストに基づき GS1 標準に適合していることを「自己適合宣言」した製品を掲載しているもので、今回はこのうちの 8 社から、計 17 製品の資料を配布用に提供いただいた。

また、近年あらためて必要性が高まっている商品情報データベースについての関連パネルを拡充。併せて担当職員が常駐して問い合わせに備えるなど、対応を強化した。

展示以外では、前述の企画セミナー「流通システム標準化の最新動向」を 6 日午前に展示場内の特設会場で、また 7 日には昨年と同様に、明治記念館で開催した「次世代卸売業への変革—卸研成果発表—」をリアルタイムのオンライン配信でそれぞれ実施。例年以上に当財団の取り組みを積極的にアピールした展示会であった。

(GJP 会員制度事務局)

理事会・評議員会を開催

－ 2025 年度の事業計画・予算を審議 －

2025 年 3 月、当財団は 2025 年度の事業計画および予算を審議するため、2024 年度 第 2 回通常理事会および 2024 年度 第 2 回評議員会を開催した。

2024 年度 第 2 回通常理事会

2025 年 3 月 5 日に明治記念館（東京・港）において開催した。

豊永会長が議長となり議事が行われた。また、議事録署名人は議長の他に服部監事が務めた。

第 1 号議題「2025 年度事業計画について（案）」

第 2 号議題「2025 年度収支予算について（案）」

第 3 号議題「登録事業積立金の取り崩しについて（案）」

第 1 号から第 3 号議題は相互に関連があるため一括審議したい旨の提案があり了承された。

杉谷専務理事から各議題の内容について説明があり、議長が 3 議題について諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認した。

第 4 号議題「理事の職務執行状

況について」

常勤理事である豊永会長、杉谷専務理事、前田常務理事、森理事、浅野理事が、2024 年 6 月に開催した 2024 年度 第 1 回通常理事会終了後から現在までの職務執行状況について書面で報告を行った。

第 5 号議題「2024 年度 第 2 回評議員会の開催について（案）」
評議員会の日時および場所、議題および議題の概要について承認した。

議長は、以上をもって閉会を宣した。

2024 年度 第 2 回評議員会

2025 年 3 月 19 日に明治記念館において開催した。

細野評議員が議長となり議事が行われた。また、議事録署名人は議長の他に浅野評議員と廣根評議員が務めた。

第 1 号議題「2025 年度事業計画について（案）」

第 2 号議題「2025 年度収支予算について（案）」

両議題は相互に関連があるため一

括審議したい旨の提案があり了承された。

杉谷専務理事から各議題の内容について説明があり、議長が両議題について諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認した。

第 3 号議題「理事の選任について」
理事 2 名の辞任に伴い、後任の理事 2 名の選任について諮ったところ、全員異議なく次の者を理事に選任した。

辞任：豊島 直人、畑中 伸介
新任：須崎 裕明、森下 留寿
(2025 年 3 月 19 日付)

議長は、以上をもって閉会を宣した。

今回承認された 2025 年度事業計画および予算は、当財団ウェブサイトに掲載されている。

また、次回の理事会・評議員会は、2024 年度決算を審議するため 2025 年 6 月に開催予定である。

(総務部 山下)



理事会開催風景



評議員会開催風景

新規会員募集中！



流通業における情報システム化に関わる各種キーワード（GS1 標準、EPC、EDI など）を中心として、最新のシステム技術、システム化事例、業界動向、国際動向などの情報を共有し、流通業界全体のシステム化、標準化を推進することを目的とします。

2024年度イベント実績

GS1 Japan
パートナー会員制度の
詳細はウェブで



開催日	イベント名	主なテーマ・議題
2024 /4/25	見学会	イオンネット専用スーパー「グリーンビーンズ」自動倉庫 イオンネクスト(株)・菅田顧客フルフィルメントセンター（千葉市緑区）
2024 /5/14	第1回セミナー	・現在の日本における小売業の環境について ・海外リテール業界との28年 ・GS1の動向ー明日を変革し続けて50年ー
2024 /7/9	第2回セミナー	・製・配・販連携協議会における物流効率化の検討状況について ・ヘルスケア分野で利用が進む様々なGS1標準ー国際動向と海外の医療機関での取り組みー
2024 /10/22	第3回セミナー	・GS1事業者コード最新動向 ・GTINと商品情報を簡単に登録・管理・PR！～GS1 Japan Data Bank -商品情報-の紹介～ ・Verified by GS1と新サービスGS1事業者コード情報確認サービスのご紹介 ・GLNデータベースの刷新～GS1 Japan Data Bank -事業者・ロケーション情報-のご紹介～
2024 /11/12	第4回セミナー	・すべての人々に安全な食品をーGFSIの概要とその活動ー ・GS1標準を活用した物流可視化・効率化ー持続可能な加工食品物流の構築にむけてー
2025 /2/19	<一般公開セミナー> GS1 標準によるオムニチャネル環境の業務革新 2024	・将軍珈琲ものがたり ーコーヒー文化を広げるサザコーヒーの店舗ネット戦略ー ・世界のネット販売で利用拡大するGS1標準 ・LazuliのPDPの取り組みと流通システムの未来像

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。